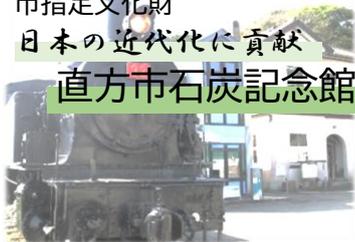


## 直方のレトロ建築 —文化施設—

市指定文化財

日本の近代化に貢献

直方市石炭記念館



明治43年、筑豊石炭鉱業組合が直方会議所として建築し、協議の場として使用していたものである。

その後、九州炭鉱救護隊連盟直方救護練習所として利用され、粕屋郡への移転に伴い、昭和46年、石炭と炭鉱の歴史を語る直方市石炭記念館として発足することになった。

時を感じる旧炭鉱王の邸宅

直方歳時館



明治31年、近代の炭鉱開発に尽力した堀三太郎氏の住宅として建設された和風住宅を、昭和16年に市が寄贈を受け、約30年にわたって中央公民館として親しまれた。

しかし、建物の老朽化により利用されなくなり、平成9年から2年を費やし改修工事をおこない、現在の歳時館として生まれかわった。

国登録有形文化財

レトロな外観そのままに

直方谷尾美術館



昭和初期に建てられた旧奥野医院を洋館造りの外観そのままに内部を改装、平成4年に、故・谷尾欽也氏が開設した美術館である。

また、平成10年に新館を増設し、ステンドグラスの窓などモダンな雰囲気演出した洒落た佇まいで注目を集めた。

平成12年3月ご遺族から美術館と作品の寄贈を受け、平成13年4月に直方市美術館（現：直方谷尾美術館）としてオープンした。

## 筑豊の民話 ～信心の功德～



筑前の国鞍手郷のある村に、信心深いひとりのお婆さんがお寺まいりなどをしながら豊かな余生を送っていた。

ある日、道に迷った一人のお坊さんがお婆さんの家の戸をたたき、一晩泊めてくれないかと願い出た。お婆さんは心よく上にあげ、ごちそうをしてもてなし、食事を終えたお坊さんに、亡くなった主人のためにお経をあげてくれないかと頼んだ。

ところが、みかけだけでお経を知らなかったお坊さんは、断ることもできず、仏壇の前に座り、どうしたものかと考え込んでいると、障子の隙間からネズミが一匹でてきたので、お経のような節をつけ「おんきよろきよろお出ましなさる」と唱えた。ネズミがきよろきよろあたりを見回したので「おんきよろきよろ左右見回りなさる」とつづけ、ネズミが鳴き、「おんきよろきよろささやきなさる」、そして隠れたので「おんきよろきよろお帰りなさる」と唱えた。そうとは知らないお婆さんは、ありがたいお経と思い、お坊さんが去ってからも毎朝毎晩「おんきよろきよろ…」と唱えた。

一カ月位たったある晩、盗人がお婆さんの家にはいると、ちょうどお婆さんがお経を読みはじめた。「おんきよろきよろお出ましなさる」。盗人は驚き、あたりを見回すと「おんきよろきよろ左右見回りなさる」。さては見つかったかと盗人がつぶやくと「おんきよろきよろささやきなさる」。盗人はあわてふためき、この家の人は何でも見通したと逃げ出した。そのあとを追うように、お婆さんがゆっくり唱える「おんきよろきよろお帰りなさる」。

信心深いお婆さんは、末長くしあわせに暮らしました。

【基本情報】 ◇考古資料・遺跡 《所在地》直方市上境 《指定年》1958年11月



直方市上境の須賀神社裏にある高さ135cmの板碑で、上部に大梵字が彫られ下部に文字が刻まれています。文字が風化でほとんど解読できないため、この板碑が建てられた詳しい経緯はわかりません。ただ文字に建武三年（1336年）とあるため建武の板碑と呼ばれています。この板碑については、「明窓」と読める文字があることから、南北朝時代、戦いに敗れ九州に落ちのびた足利尊氏が上野興国寺の明窓宗鑑禅師に頼み、九州で死んだ部下を弔うために建立したという説と、須賀神社の前身である祇園神社の神官の急逝を悼み建立されたという説がありますが、どちらも確証はありません。



梵字は「アーンク」と読み、胎蔵界大日如来を表現しています。

参考：「上境 私たちのふるさと」N219ノ

「直方市バーチャルミュージアム」<http://nogata-virtualmuseum.jp/assets.php?no=164>



## はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。  
郷土の歴史や文化に興味をもっていただくきっかけになればと思っています。

『筑豊石炭鉱業史年表』 西日本文化協会/刊 NL567 千

1830年（天保元）から1968年（昭和43）のおよそ1世紀余りの筑豊石炭鉱業史を「生産・流通」「企業・労働・災害」に分類、同時に「全国石炭事情」「地域社会」も知ることができる年表となっています。筑豊の石炭は近代日本の発展と戦後復興を支え繁栄をもたらしますが、その陰では数十万人の炭鉱労働者の犠牲がありました。さらにエネルギー政策により炭鉱は閉山し、筑豊の人々は棄民となり、筑豊は崩壊します。

この年表の目的は学問的関心や懐古ではなく、「石炭鉱業の無残な崩壊に対する一つの抗議」であり「筑豊の過去を踏まえ将来を展望するための基礎資料」と編集総記に記されています。年表に掲載された史実の向こうにある思いを受け止めたいと思います。

直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがた内  
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902